

砺波市美術館 開館20周年記念
2017となみチューリップフェア特別展

宮カ脇綾子

布とあそび

日々よろこぶ



《かぶの花》1976年 豊田市美術館蔵

2017

4月8日(土) ▶ 6月4日(日)

10:00~18:00 (2017となみチューリップフェア期間)
4/21(金)~5/5(金・祝)は8:30~17:30

5/8(月)、9(火)は休館いたします。(作品の一部入れ替えがあります)

主催/砺波市、公益財団法人砺波市花と緑と文化の財団・砺波市美術館、一般社団法人砺波市観光協会 後援/となみ衛星通信テレビ、エフエムとなみ、となみ芸術文化友の会 協力/豊田市美術館、名古屋市博物館、公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム、一宮市三岸節子記念美術館

観覧料

大人(高校生以上) 1,000円(900円)

小人(小・中学生) 300円(200円) 小学生未満は無料

※()内は20名以上の団体料金です。

※チューリップフェア期間中(4/21~5/5)はフェア入場券でご覧いただけます。

※5/5(金・祝)こどもの日は小人無料です。

※障がい者の観覧は無料です。(介助者1名を含む、入館の際に証明できるものをご提示ください)

※本展覧会の観覧券で常設展もご覧になれます。

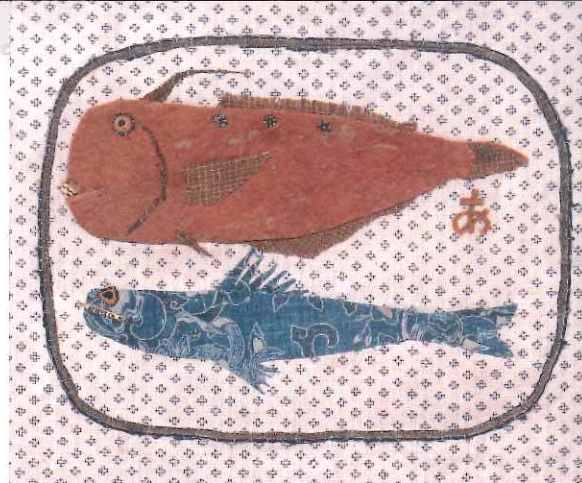
宮脇綾子(1905-1995)は、身近なものを温かな視線でとらえ、端切れや古布など様々な素材でユーモアに富んだ表現をした「アプリケ」の創作作家です。

本格的に創作活動を始めたのは、40歳を過ぎてからでした。戦争が終わり、ぼっかり空いた時間を使って自分の仕事をしたいという思いが溢れ、ものを大切にする姑が集め残した端切れや古布が、彼女の一番大好きな「縫う」という作業で一つの作品として生まれ変わったことがきっかけでした。

その作品の多くは、庭先や道端の草花、台所にころがる野菜などごく身近なものを見つめ、美しいと感じたままを豊かな発想と斬新な素材の組み合わせでつむぎだされたものです。

本展では、彼女の初期から晩年までのアプリケ作品と日常を綴った《はりえ日記》や自身が縫った着物など、70点余りを展示します。

日々の暮らしによせる愛情を創作の喜びにかえて生きた宮脇綾子のアプリケの世界をお楽しみください。



《てんすとおさえそ》1975年 豊田市美術館蔵



《デンマークのしゃもじなど》1970年 個人蔵



《たこと並ぶ魚たち》1957年 豊田市美術館蔵



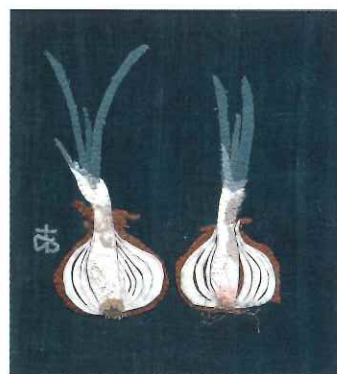
《さしみを取ったかれい》1970年 豊田市美術館蔵



《麻縫綴り合わせ壁掛》制作年不詳 名古屋市博物館蔵



《パッチワークの着物》制作年不詳 個人蔵



《切った玉ねぎ》1965年 豊田市美術館蔵

関連催し

1 ギャラリートーク(要観覧券)

講師 ■ 豊田市美術館 館長 村田真宏氏
 日時 ■ 4月8日(土) 11:30~12:30
 場所 ■ 1階企画展示室

2 ワークショップ アプリケをつくってみよう

講師 ■ 松原奈津野氏
 (布絵作家、砺波市美術協会会員)
 日時 ■ 5月13日(土) 10:00~12:00
 場所 ■ 2階市民アトリエ
 定員 ■ 先着20名
 (小学生以下は保護者同伴での参加)
 要電話申込 TEL:0763-32-1001

参加費 ■ 300円
 内容 ■ 布切れを材料に創作アプリケを作ります
 持物 ■ はさみ、筆記用具

3 担当学芸員の作品解説(要観覧券)

日時 ■ 4月16日(日)、5月28日(日) 14:00~
 場所 ■ 1階企画展示室



・JR北陸新幹線「新高岡駅」、あいの風とやま鉄道「高岡駅」よりJR城端線に乗り換え20分、「砺波駅」下車、徒歩20分
 ・北陸自動車道・砺波 I.C. から車で5分

TONAMI ART MUSEUM
砺波市美術館
 〒939-1383 富山県砺波市高道145-1
 (砺波チューリップ公園内)
 TEL:0763-32-1001 FAX:0763-32-6361
<http://tonami-art-museum.jp>

5/28(日)市民美術館の日は
 砺波市民は観覧無料です。